

<p>横浜市小学校社会科研究会</p> <p>5 学年部会</p> <p>研修会記録</p> <p>第 3 号</p>	<p>令和元年 9月 4日</p> <p>横浜市小学校教育研究会</p> <p>会長 榮 秀 之</p> <p>横浜市小学校社会科研究会</p> <p>会長 新 井 篤 志</p> <p>同 学年部長 加 藤 沙 智 子</p>
---	--

<p>【提案日時】</p> <p>7月 24日 (水)</p>	<p>提案 高林 宏成先生 (鶴見小)</p>
<p>【会 場】</p> <p>フォーラム南太田</p>	<p>司会 宇佐美 克俊先生 (本町小)</p> <p>記録 生方 由起先生 (高舟台小)</p>

○単元名
「Sさんたちの米づくり～庄内町余目から考える日本の農業～」

○提案者より

- ・子どもの実態としては、米づくりを行っていなかったり、学区に田や畑がなかったり、農業に触れる環境にいない。
- ・給食の米を共通経験の入り口として、本単元の学習につなげた。

<成果>

- ・子どもの予想をもとに学習計画を立てる時間をとった。見通しをもって学習に臨んだり、主体的な学びの姿勢につなげたりすることができた。
- ・前単元の学習、本単元でおさえたい協力関係、自分の経験と関連付けて、振り返りができている児童がいた。

<提案>

- ①前単元とのつながりや学習計画を立てる流れはどうか。←思考の流れに沿っているか。
- ②本時の流れは、社会的事象の意味に迫っていたかどうか。←慣行栽培米に力を入れている理由を考えられているか。←日本の農業の課題につなげることができているのか。←農業に関わる人々の工夫や協力関係について考えられているか。

○グループ協議

<成果>

- ・校庭の面積を実際に測って、田んぼの広さと比較した◎→少しでも身近に
- ・子どもの予想を大切に追究していこうとする流れ◎
- ・単元を見通す学習問題が「ざっくり」している◎→様々な思考を取り入れることができる。

<今後に生かすために>

- ・日本の農業の課題をしっかりとおさえられていることが重要。
- ・子どもの事象に対する予想から単元を見通す学習問題「Sさんはどのように——」ができたが、この学習問題に対する振り返りも明確にしていく。
- ・慣行栽培米と特別栽培米の特徴を比較した資料があると、なぜ慣行栽培米に力を入れているのか、どちらのよさも分かり、根拠を明確にして考えを表現することができる。
- ・田んぼの広さと農家の平均年齢から、日本の農業の課題につなげることできる。
- ・農協も慣行栽培米に力を入れていると決断も、事象の意味に迫ることができる。

<講師の先生より>

○西部学校教育事務所 主任指導主事 秦 秀治 先生

- ・前単元で概要や課題を知っている。Sさんの事例を通して、日本の農業について学習していく。教師が「単元の入り口にどう入るか、出口をどう出るか」イメージをもつことが大切である。単元を見通す学習問題の中の、「どのように」という言葉が何を指すのか明確にするとよい。
- ・「〇〇さんの言葉」は、学習を進めていく上で、とてもインパクトのある資料になりうる。どのようなところから、この言葉につながっているのか考えることが大切。
- ・子どもの振り返り「——みたいに」「やっと分かりました」「分かった気がします」という子どもの純粋な言葉や思いから、子どもの考えの変容を読み取っていくとよい。